

平成29年度学校目標 (平成30年公開)

学校目標

(1) 本校は、高等専修学校で、高等学校と同じように普通教科の学習のほかに、職業生活に役立つ技能・技術を学ぶ専門教を学習します。また、日本教育学院高等学校と技能連携をむすび、卒業時には、高校卒業資格を得ることができます。

(2) 本校の教育理念は、「礎の上に」であり、なにごとにも「基礎・基本」が大事であり、単に「教科学習」の習得だけでなく、学習の「礎」にもなる「生活習慣の確立」をめざします。

(3) 本校の目標とする生徒は、日本の社会発展に寄与・貢献し、社会で活躍する「人材」、「責任と実行力」のある人材になることです。

(4) 基礎的体力、社会的コミュニケーションの育成・確立を目指して、「運動」(「武道」・「クラブ活動」・「ボランティア活動」など)を推奨します。

[めざす学校像]

(1) 本校の教育理念は、「すべては礎の上に」であり、なにごとにも「基礎・基本」が大事であり、単に「教科学習」の習得だけでなく、学習および社会生活の「基礎・基本」を大事にし、「基本的生活習慣」の確立をもめざす。

(2) 本校の目標とする生徒は、日本の社会発展に寄与・貢献し、社会で活躍する「人材育成」を主眼とし、「責任と実行力」のある人材になるよう育成する。

(3) 基礎的体力、社会的コミュニケーション能力の育成・確立を目指して、「運動」(「クラブ活動」・「ボランティア活動」など)を推奨する。

[学校目標]

(1) に関して

- ① 上記の目的を達成するため、諸検定(日本漢字能力検定、日本数学検定、英語検定、全商情報処理・ビジネス文書実務検定(ワープロ検定)、全経簿記検定、色彩検定、等)の取得を推奨し、合格率を上げる。上位検定取得も奨励する
- ② 基本的生活習慣の確立のために、遅刻・欠席の防止に努める。不登校傾向のある生徒に対しては、登校指導とともに、家庭訪問などの諸策を講じ、進級・卒業に向けて尽力する。今年度の重点目標は退学防止である。
- ③ 「分かる授業」を実践し、「授業改善」を図る。同時に、授業態度を改善し、学力向上、基礎学力の養成を図る。
- ④ ピアカウンセリングを実施し、生徒の学校生活や高校卒業後の進路などについて、先輩として話しを聞き、不安を和らげ、支援する。

(2) に関して

- ① 3年間の月別進路指導表を作成し、生徒や保護者に進路指導の目標や流れの理解を促す。
また、月1回発行して「進路だより」を生徒や保護者に配布し、各学年の進路の取り組みなどを理解しやすいように工夫する。
- ② 3年間の高校生活を見通した計画的・発展的な指導体制を築き、「進路年間予定表」(全学年)を貼

りだし、同時に、家庭学習を中心とした自主的な学習時間の増大を図り、希望する進路実現の具体化を図る。

- ③ハローワーク担当者や企業経営者、卒業生による講習や講演を実施することをとおして、必要な情報を提供し、進路決定に役立たせる。

(3) に関して

- ①1年時より、就職困難生徒を対象に、放課後「進路クラブ」を実施し、基礎的な技術の習得や体力の増進を図る。また、生徒の状況を応じて、「適応コース」で生徒の学習生活を保障する。
- ②クラブ活動の参加率を高め、集団生活における心構えや意識の涵養を図る。また、1年2学期より、アルバイトの奨励とともに、2年の就労体験、2年の年度末の進路相談の充実を図る。
- ③種々のボランティア活動を個別に紹介し、奨励する。学校周辺の清掃活動を実施し、ボランティア精神を涵養する。

上記3つの目標を達成するために、教員間の連携を強める。

【校務分掌の目標】

【教務部】

- ①「学び直し」により基礎学力の育成・定着を図る。就職・入学試験に対応できる学力の養成・定着を図る。
- ②年間をとおして、基礎学力の養成と確立に取り組む。
- ③実習室（第1情報室、第2情報室、コンピュータグラフィックス教室、デッサン室）、移動教室（図書室、第1補習室、第2補習室、視聴覚室）の環境整備を行う。
- ④生徒を理解する時間を作る。HRや行事の取り組みをとおして、生徒の諸活動を支援し、自主性を育む。
- ⑤校務分掌と学年の諸活動を連携させ、必要な情報は共有する。

【生活指導部】

- ①自立心の向上を目指し、目的意識をしっかりと持たせ、初心を忘れず真剣に努力する姿勢を身につけさせる。
- ②年間指導計画に基づく、積極的な生徒指導を行う。
学校生活のあらゆる場面をとらえて、全教員の共通認識のもと、計画的・組織的に行う。
その際、情報共有に努め、全教員の相互理解を高める。また、問題行動の早期発見、注意、指導により、謹慎処分を出さない。
- ③「授業規律」を確立する。学習指導とともに、「主体的に授業を受ける態度」の育成を図り、「自己指導力」を育成する。

【進路指導部】

- ①年間をとおして、「就職できる人になろう」を目標とする。
- ②各学年の目標は次のとおりである。
1年は、「自分の進路を真剣に考え、就職か進学かを決定する」。
2年は、「1年間で多くの仕事、大学や専門学校を知る」。
3年は、「進路目標を決定し、継続的な努力で目標を実現する」。
- ③採用する企業から要請される高校卒業生像を生徒に理解させ、能力や姿勢の育成に努める。とくに、体力のない生徒、学力が低い生徒は、各学年と協力しながら、工夫して取り組む
- ④卒業後の離職理由は「体力がない」、「長時間労働」に対する意識など様々である。生徒や保護者に丁寧に説明し、就労意識を高める。
- ⑤進学を希望する生徒に、1年次より系統的・体系的な指導を確立する。大学のオープンキャンパスや進学情報的確に生徒・保護者に伝え、必要に応じて個別懇談を随時実施する。また、経済的に困難を抱える生徒

の相談に応じ、必要な情報を提供する。

【事務局】

- ①学費・諸費徴収をスムーズに行うため、保護者連絡文書表現を改善し、教員・保護者からの連絡に適切に対応する。また、保護者説明会やオープンキャンパス参加の中学受験生や保護者の理解を説明項目などを図表化し、プロジェクターなどを使って説明する。
- ②各家庭の事情や経済状況を踏まえ、保護者と相談のうえ、学費の分納や延納などの対応を行う。
- ③就学支援金・奨学金の事務処理を的確に行う。

【1 学年】

【具体的目標】

- ①年間の学年目標は、全員進級であり、そのためにも「助け合い・思いやりのある学年にする」ことである。
- ②1学期の目標は、基本的な生活習慣の確立である。
- ③2学期の目標は、資格取得にチャレンジすることである。
- ④3学期の目標は、2年になる準備をすることである。

【具体的手段・方法】

- ①入学式後、1年全員に「高校生活」の目標と取り組みを説明する。そのため、校長を始め、教務部、生活指導部、進路指導部、各学年部から、学校生活を理解し、基本的な生活習慣の確立を目指す。
また、4月のから5月中旬の間に家庭訪問を実施する。
- ②遅刻・欠席防止のため、生徒の意識改革と保護者の理解と協力を強く求める。
1学期は中学校の基礎学力の養成と定着を図る。
- ③定期考査前に、補習を実施し、2学期からは、7校時の補講などを利用して、検定前の補習を実施する。
- ④最終学期に2年になるための準備をする。学校生活や卒業後の進路に対する意識を高め、学校生活の目標を早期に確立させる。

【2 学年】

【具体的目標】

- ①学年目標は次のとおりである。
遅刻・欠席のない学年。周りの人に迷惑をかけない、気持ち用過ごせるように行動する。協力して、自主的に活動する学年。
- ②各学期の目標は次のとおりです。
1学期は、「各行事に積極的に取り組み、参加する」。
2学期は、「行事を企画し、全員が自主的に行動する」。
3学期は、「4月からの進路に向けて活動できるように、全員が進路の意思決定をしよう。みんなで協力して、全員が進級しよう」。
- ③進路を意識しての資格取得や基礎学力の向上を図る。生徒との「個別面談」や保護者・生徒との「三者面談」を実施して、進路決定の話し合いと生徒の意識向上を図る。
- ④学校生活を充実させ、進路意識の向上を図るために、年2回進路合宿を行い、社会性を身につけ、集団生活に適應する力を養成する。「進路合宿」では、発声練習、模擬面接、履歴書・大学出願書類作成練習、クレペリン検査、創作活動、体力測定などを行う。また、11月には、就職希望者に職場体験を実施する。

【具体的手段・方法】

- ①進路決定をする際、出席状況が重要であり、1年次の出席状況を反省して、遅刻・欠席をしないように1学期から取り組む。
保護者と日常的な連絡を取り、必要に応じて家庭訪問を実施する。
学期末の保護者懇談は全員出席とし、欠席の場合は、家庭訪問を実施する。
- ②6月に実施する進路合宿は、数学検定補習、適性検査、面接講義、カヤックおよびカヌー体験、発声練習などを実施する。
11月に実施する進路合宿は、発声練習、模擬面接、クレペリン検査、登山などを実施する。
また、9月に行われる校外学習や進路学習では、市内探索や市内見学を通りして、体験学習を行い、社会生活における適応力を育成する。

[3年生]

【具体的目標】

- ①各学期の目標は、次のとおりである。
1学期は、「戦う準備を整える」。
2学期は、「年内の全員進路決定」。
3学期は、「最高の卒業式にする」。
- ②3年生になる前に、進路指導部による生徒全員面接を実施する。就職希望者に対しては、担任による生徒・保護者との相談を徹底し、また進路指導部と連携を図り、就職支援を強化する。1学期末までに就職希望先を決定し、夏休みの登校学習で、会社見学、就職試験や履歴書作成、面接指導などを実施する。
- ③進学希望者は、1学期に進学希望先のオープンキャンパスに参加すると共に、進学情報・資料を収集し、9月末までに、願書を作成し、提出に備える。
- ④社会生活を営む上での基本的なルールやマナーを習得し、実社会での生活に備える。
- ⑤進路講習会を年3回実施、進路決定や決定後の生活、卒業後の生活を意識して、最終学年を有意義なものにする。

【具体的手段・方法】

- ①春期休暇中に、進路部長による3年生全員の進路希望面談を行い、3年生の進路の流れを確認する。
就職希望者は、6月からの求人票掲示、求人票の見方、会社見学、応募・受験の流れまでを理解させる。
また、夏期休暇中の登校学習では、履歴書の書き方、応募・見学・受験の流れを理解させ、9月中旬に始まる高卒求人の受験に備える。
- ②進学希望者に関しては、3年生になってから、進路指導部による面談を実施する。希望校のオープンキャンパスやネット等を利用して得た情報から複数の受験校を選び、募集要項を早めに集める。芸術系大学など受験に実技が必要な場合は、担当教員と打ち合わせて補習を実施し、受験に備える。9月末までに受験の応募書類を準備し、願書提出に備える。
- ③3年6月の「直前進路合宿」で、上記目的を理解させるとともに、集団生活を通してのルールの大切さ、マナーの重要性を理解させる。また、マナーに関しては、9月に実施予定の「テーブルマナー」で、実際に確認する。
- ④進路講習会では、ハローワークの担当者の講演会を実施するだけでなく、企業研修や進学体験を聴く機会を増やす。